

# 今、私たちが求める働き方とは

熊本県立宇土高等学校

## 要旨

現高校生に理想の働き方についてのアンケートを取って聞き、現状の働き方を調べそれらを比べる。現高校生は現状よりもやや短い労働時間を理想としていることがわかった。また、他にもアンケートを取ったところ自分や家族との時間を取れることを理想としている人が多く、働き方や有給の取得において自分に合わせた働き方が求められている。

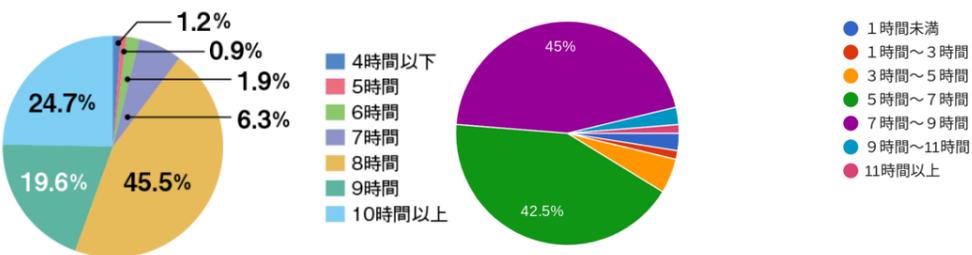
### 1. 目的

働き方改革という言葉があるが、現在の働き方の現状と現高校生が理想とする働き方とではどのくらい違っているのか知りたいと思ったから。

### 2. 方法

仕事についての現状を調べる。  
高校2年生にアンケートを取り、現状と現高校生の理想を比較する。

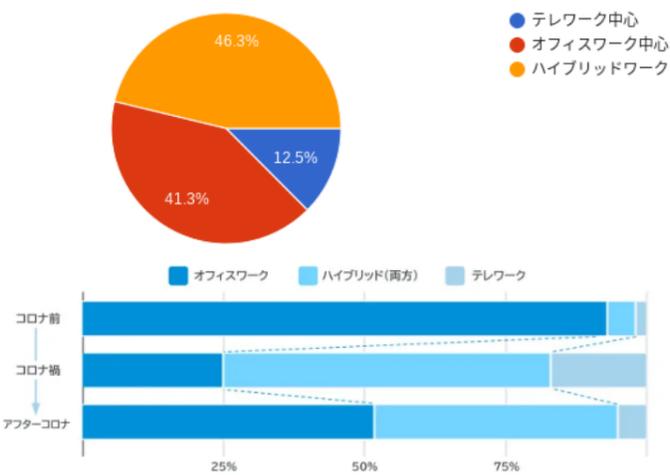
### 3. 結果



1日にどのくらいの時間働きたいと考えているかというアンケートを行った。左のグラフは現在の労働時間を示しており右のグラフはアンケートの結果である。

現在の労働時間は8時間、10時間以上、9時間の順で9割以上を占めていることがわかる。一方、現高校生の理想とする労働時間は7時間～9時間、5時間～7時間の順に9割近くを占めていることがわかる。

このことから、高校生は現在よりも短い労働時間を理想としていることが考えられる。また、現在の労働状況では労働基準法で定められている1日8時間の労働時間を大半の方が超えていることも考えられる。

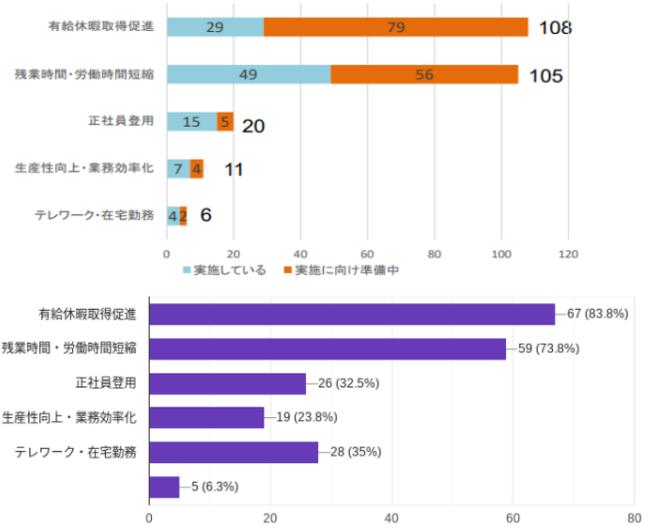


自分にはどのような働き方が合うかというアンケートを行った。

現高校生はテレワーク中心の働き方が合うと思う人は少なく、オフィスワーク中心やハイブリッドワークが合うと思う人が9割近くいることがわかった。

現状として、コロナ前はオフィスワークを行う会社がほとんどだったが、コロナ禍を経てハイブリッドワークを行う会社が増えている。

現高校生の理想とコロナ後の働き方は同じような割合になっているためハイブリッドワークが広まり一人ひとりの状況に応じた最適な働き方ができるようになったことは効果的な変化あったと言える。



どの働き方改革が行われている会社に就きたいと思うかというアンケートを行った。

現高校生は「有給休暇取得促進」が一番多く、僅差で「残業時間・労働時間短縮」が多く2つに次いでテレワーク・在宅勤務があがった。現状は私たち高校生が求めるものと1位、2位は変わらず3位だけが違って「正社員登録」であった。現高校生も「テレワーク・在宅勤務」に続いて「正社員登録」が3位であった。このことから、高校生の理想と現状が概ね一致していることがわかる。しかし、現状では「テレワーク・在宅勤務」が少ないことが分かったので「テレワーク・在宅勤務」をもっと広めていく必要がある。

### 4. 考察

現高校生は現状よりもやや短い労働時間を理想としていることがわかった。また、他にもアンケートを取ったところ自分や家族との時間を取れることを理想としている人が多く、働き方や有給の取得において自分に合わせた働き方が求められている。

以上のことから現在の働き方と現高校生が理想とする働き方とでは概ね似ていると言える。

### 5. 感想

現高校生にアンケートを取る前はたくさんの休みを設けたり労働時間の短縮に取り組んでいる会社に就くことを理想としている人が多いと思っていた。しかし、アンケートを取った後ではある程度の労働時間が設けられていてハイブリッドなどの自分にあった働き方を理想としている人が多いという違いがあることに気づいた。

将来働きやすい環境が備わっている会社が増えてほしいと思う。

### 6. 参考文献

[https://www.recruit-dc.co.jp/contents\\_feature/no1807a/](https://www.recruit-dc.co.jp/contents_feature/no1807a/)  
<https://jsite.mhlw.go.jp/fukushima-roudoukyoku/content/contents/000405328.pdf>  
<https://www.icare-carely.co.jp/news/20230908>